

私たちの町の遺跡

大名墓物語 細川家の人々

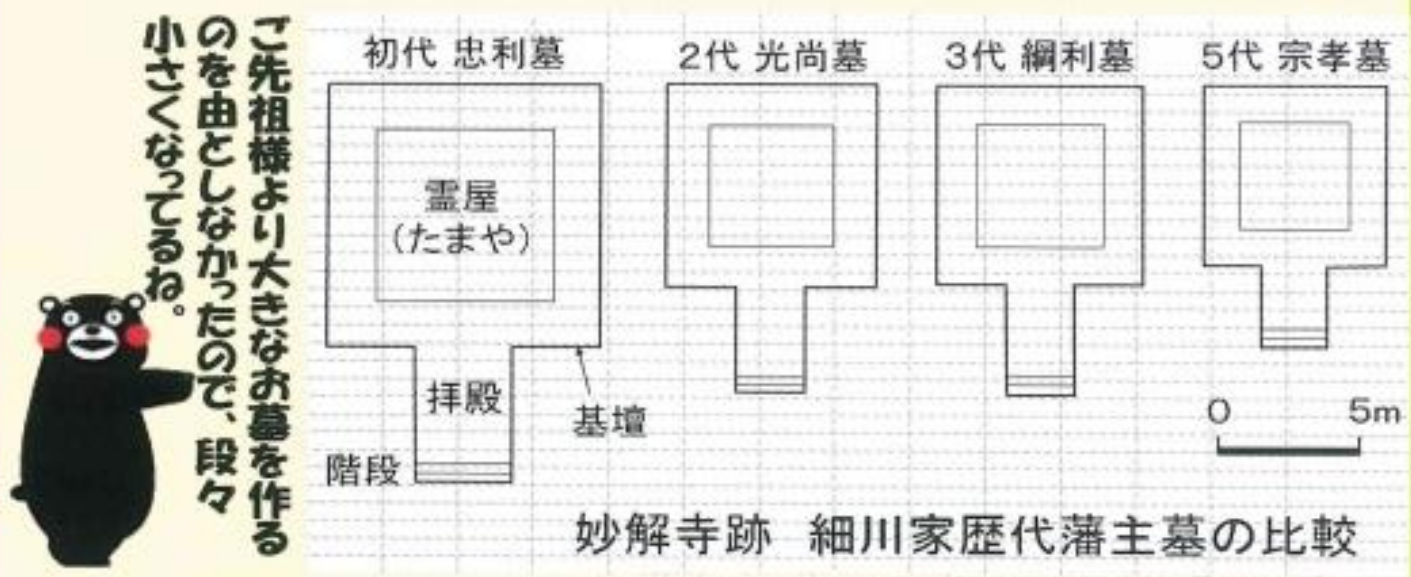
■第3話 先代様には遠慮するもの

北岡自然公園にある妙解寺（みょうげじ）跡の細川家歴代藩主墓はいずれも基壇（基礎の石積み）を高く造り、その上に墓石や建物などの上部施設が乗っています。基壇を高くすることで、被葬者である藩主の権威を表したのでしょう。基壇の平面プランは、正方形と縦長の長方形がくっついた形をしています。このくっついた形は、他の大名家の墓からみると独特で、細川タイプともいうべきものです。江戸時代を通して、この形が代々受け継がれていったのです。

基壇の大きさを比べてみると、面白いことに気が付きます。下の図を見てください。構造が全く同じである初代藩主忠利墓、2代光尚墓、3代綱利墓、5代宗孝墓、それぞれの平面図を並べてみました。初代忠利墓が最も大きく、子孫の墓は代ごとに小さくなっているのが判ります。墓の大きさは、藩主の権威を表すものですが、それでも先代藩主には遠慮をしなければならなかったのでしょうか。

熊本細川藩の創始者であり、名君の誉れが高かった初代忠利。妙解寺跡の細川家墓所には、その忠利を頂点とした歴代藩主の序列が表現されているのです。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗氏



妙解寺跡 細川家歴代藩主墓の比較